

※S51年2月頃より京浜東北の蒲田区にもATC搭載の高運Tc及び冷房車の投入が開始された。捻出された非冷房103系の組み合わせにより横浜線には初のMcを先頭にした7両貫通の固定編成が誕生した。

◎S53年3月31日付蒲田電車区横浜線編成表

蒲田電車区

	7号車	6号車	5号車	4号車	3号車	2号車	1号車
←	クモハ 103	モハ 102	サハ 103	サハ 103	モハ 103	モハ 102	クハ 103
八王子							
52F	75	184	139	111	Mc49	146	546
53F	47	143	88	80	94	137	559
55F	48	145	140	71	148	277	521
56F	62	165	138	137	72	72	554
↓							
56F(6/9)	62	165	138	137	644	800	559

	7号車	6号車	5号車	4号車	3号車	2号車	1号車
	クハ 103	モハ 103	モハ 102	サハ 103	モハ 103	モハ 102	クハ 103
51F	71	48	48	72	113	192	598
54F	125	71	71	48	128	235	86

S49年6～7月の第一期に配属となった103系の一角が転属の対象となった

★転配録

転出① 阪和線新性能化用 (天オト)へ4両 S51年上期?
M 132・241, Tc 87, Tc96、

転出② 片町線新性能化用 (大モリ)へ15両 S51年度上期
M 57・57、M 61・61、M 70・70、Tc 57、Tc 58、Tc 62、
Tc 72、Tc 76、Tc 79、T 51、T 52、T 70

転出③ 青梅・五日市線新性能化用 (西トタ)へ2両 S51年度下期
Tc 902、Tc 904

転出④ 中央西線新性能化 (名シン)へ9両 S52年度
Mc36・126、Mc 37・128、*Mc 38・129、
*Tc 75、*Tc 80、*Tc 88

*印は(南ヒナ)より転出